

歯科健診を受けて 誤嚥性肺炎予防



誤嚥性肺炎とは…

食べ物や唾液などが誤って気管に入ることを『誤嚥(ごえん)』といいます。これによって肺に細菌などが入り、炎症を起こすのが『誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)』です。

75歳以上では発症割合が高くなります。その理由の一つは、歯の喪失による咀嚼機能の低下や、口や舌、喉の筋力の低下などから誤嚥しやすくなるためです。



香川県と香川県歯科医師会が実施している「香川県歯の健康と医療費に関する実態調査」から、年に1回以上歯科健診を受けている方や歯がたくさん残っている人、奥歯でしっかりかめている人は、誤嚥性肺炎になりにくいことが分かりました。

歯科健診を受けるだけで誤嚥性肺炎が予防できるわけではありません。[詳しくは裏面へ](#)



歯科健診受診状況および口腔内状況と誤嚥性肺炎の発生状況について

調査概要

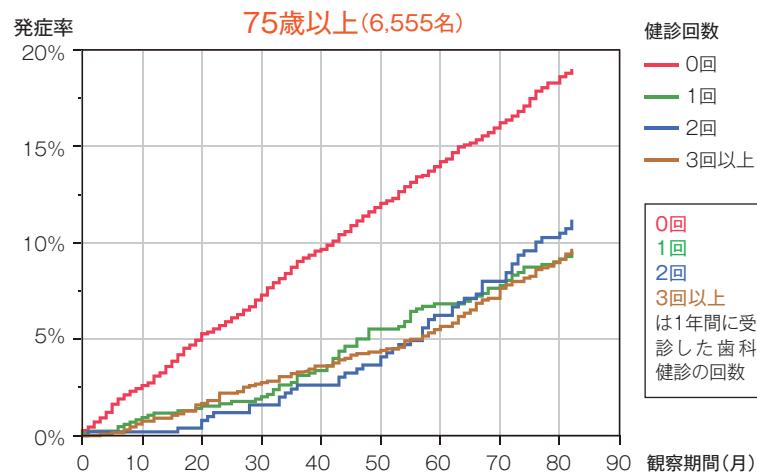
平成26年度の歯科健診受診回数および口腔内状況(現在歯数、咬合状態)とその後6年間の誤嚥性肺炎の発症状況について調査

対象者

平成26年5月末日で75歳以上の者で同月中に歯科医院に来院した者

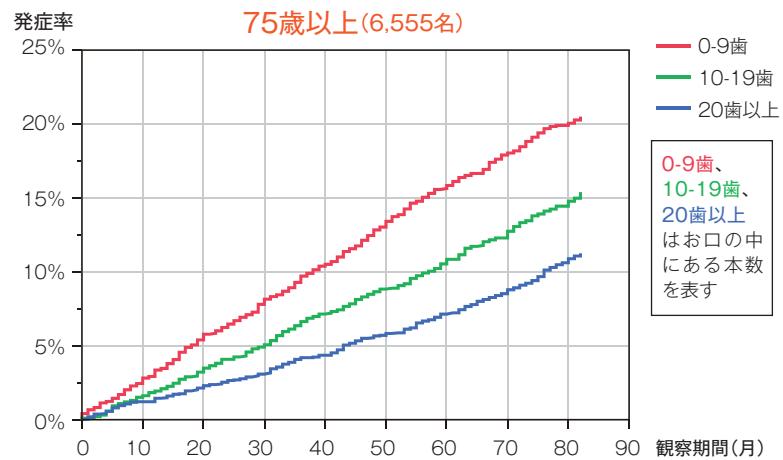
●歯科健診との関係

歯科健診を受けていない人は誤嚥性肺炎になるリスクが高い(健診0回の人は1回以上の人との1.8~2.1倍)



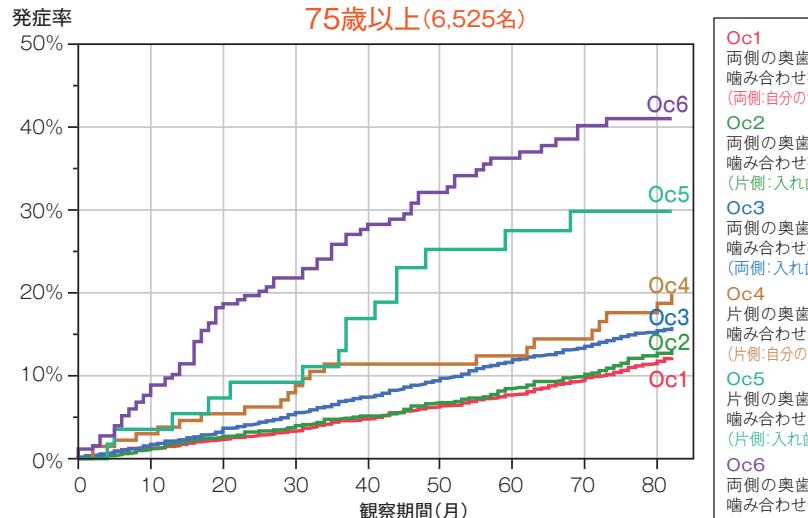
●現在歯数との関係

残っている歯が少ない人は誤嚥性肺炎になるリスクが高い(9歯以下の人は20歯以上の人との1.7倍)



●咬合状態との関係

奥歯の噛み合わせがない人は誤嚥性肺炎になるリスクが高い(Oc6は、Oc1の4.2倍、Oc2の3.8倍)



歯を失っても治療で奥歯の噛み合わせを治すことで発症リスクを下げることができます。

定期的に歯科健診を受けて、お口の健康を保ち、奥歯でしっかり咀嚼することが大切です。